



タンチョウの分散候補地を視察して

理事長 百瀬邦和

巻頭言 ……1

2016年度活動報告 ……2

日本のタンチョウは北海道の東部地域(道東)で繁殖し、数を増やしてきました。そして現在、タンチョウの生息域はオホーツク海沿岸から道北まで広がり、日高山脈を越えて日高から勇払地方でも確認されるようになってきました。今春は札幌近郊でタンチョウが観察されたというニュースが報道されています。

2017年度活動計画 ……4

先月タンチョウの分散候補地の調査で、道央から道南にかけて数箇所の湿原や河川を見て回りました。道東に比べると湿原の面積は小規模でしたが、それでも「道東の最近の繁殖地と同程度の規模」と思える候補地がいくつかありました。いずれも複数のつがいが繁殖できる広さではありませんが、山地が近いため、タンチョウが冬ねぐらとして利用できそうな不凍の河川は見つかりそうです。

2016年度の
俵橋湿原ゆめプロジェクトの
活動について ……5

私たちが希望するように、道央から道南方面へのタンチョウの分散が進んでも、それほど多くの数のタンチョウは生息できないでしょう。しかし、分散が進むことによって道東への個体数の集中を少しでも減らすことができ、また、これまでタンチョウが生息していなかった地域の方々にタンチョウ保護への関心を寄せていただくことができるでしょう。さらにタンチョウが本州への「渡り」を始める足がかりの場としても期待できるでしょう。

アーチボルド博士
との同行記 ……6

「タンチョウを一つの旗艦種として、広く湿原や自然の保全を進めていく」というタンチョウ保護研究グループの目的実現のためにも、これらの地域に分散が進んで欲しいと思っています。

国後島でタンチョウに
発信器が着けられました ……7

<活動記録> ……8

2016年度 活動報告

★調査研究活動

＜タンチョウ生息状況調査＞

・繁殖状況調査

2016年4月20日～21日に、勇払地方から日高地方沿岸部、十勝の沿岸湖沼群および中小河川の中・下流域と十勝川流域(帯広市から下流域)で飛行調査を実施しました。本調査は北海道開発局池田河川事務所からの委託事業、エコトーンプロジェクトからの寄付金および本会の自己研究資金によって行われました。

・総数調査

2017年1月14日にカウント調査勉強会を事前に行い、1月28日～2月7日の期間に10日間現地調査を実施しました。調査地は日程順に、阿寒(2日間)、音別、十勝東部、十勝南西部、浜中・根室・白糠、鶴居(2日間)、標茶、中茶安別で、日高等その他の地域は個別に情報を収集しました。調査に参加して下さったボランティアは総勢59名、のべ185人でした。

＜タンチョウ標識調査＞

2016年6月18日に事前勉強会を行い、捕獲・標識調査は6月25日～7月18日までの期間に、計12日間実施しました。調査に参加して下さったボランティアは総勢64名、のべ200人でした。2016年は26羽のヒナを標識放鳥し、これで1988年からの放鳥数は、飼育放鳥等を合わせると533羽となりました。標識個体の追跡調査では、2017年3月31日時点で213羽の生存が確認されています。

＜大陸と北海道とのタンチョウの遺伝子解析＞

韓国で越冬しているタンチョウの羽を収集し、DNAを使って大陸個体群と北海道個体群の遺伝子組成を比較しています。酪農学園大学の寺岡教授が韓国に直接赴いて分析を始められました。

＜DNAを使った餌の調査＞

旭山動物園くらぶからの助成を受け、3ヶ年計画で実施しています。本事業は酪農学園大学寺岡研究室、釧路市動物園との共同研究で、タンチョウの餌生物の

同定を目的として、タンチョウの糞中に含まれるDNAを分析しました。試料は、主に飼育下のタンチョウと標識調査の際にヒナからそれぞれ採取した糞を用いました。

＜タンチョウの生息地分散＞

財団法人日本生態系協会の事業に協力し、道央地域におけるタンチョウ生息候補地のひとつである長万部町の静狩湿原での現地調査を行いました。

環境省事業の「目撃情報収集アンケート調査」事業を受託し、タンチョウの越冬地分散の資料を収集するために、アンケートによる冬季のタンチョウの目撃情報を収集しました。

★保護・保全活動

＜傷病個体の保護収容への協力等＞

2016年9月に根室市内の農家から連絡を受けてタンチョウ斃死体の収容をしました。

2016年10月に別海町で、また、2017年2月6日に標茶町でタンチョウ傷病個体の保護収容に協力しました。

＜中標津俵橋湿原プロジェクト＞

4月に中標津町庁舎内でプロジェクトの連絡会を行い、プロジェクトの将来図を作成するとともに、対象地内にある先史時代の遺跡調査と、俵橋湿原内の採草地の俵橋湿原内の採草地の利用状況調査を行いました。

5月には上智大学の学生が現地取材と関係者へのインタビューに見えました。

6月に中標津町より借用している俵橋湿原内の町有地と、協力農家に提供していただいた畑で、トウモロコシを耕作しましたが、俵橋湿原内の畑は大雨による冠水などの影響で、育ったトウモロコシは僅かでした。

協力農家の畑で育ったトウモロコシを使って10月にニオ型給餌台を設置し、さらに俵橋湿原から約4km離れた俵橋高台の別の畑に第二の給餌台を設置しました。ニオ型給餌台の作成に

あたっては、根釧農業試験場から約150kgのデントコーンの提供を受けました。

2016～2017年にかけての冬には、二カ所のニオ型給餌台それぞれに、少なくとも一つがい、あるいは家族がおとずれました。

＜キナシベツ湿原プロジェクト＞

キナシベツ湿原を愛する会と協力して、同地区の自然保護区指定に向けた手続きを進めています。

釧路総合振興局の担当者に働きかけ、2017年度の鳥獣保護区指定地域の見直しに合わせ、新たな鳥獣保護区の候補地として同地区が推薦を受けることができました。

また同地で活動を行っている大学生グループのフィールドアシスタントネットワークに対し、タンチョウについての講演を行いました。

★教育普及活動

＜タンチョウその他ツル類に関する講演・講習会＞

2016年5月28日に釧路市立博物館に於いて、久井貴世博士(北海道大学大学院文学研究科専門研究員)の講演会「江戸時代の史料から探るツルと人との関係史」を開催し、100名近い参加者がありました。

2016年11月27日に同博物館にて、武田浩平博士(総合研究大学院大学・特別研究員)の講演会「タンチョウのダンスに秘められた暗号～動物行動学による謎解き～」を開催し、80名近い参加者がありました。

＜会報の発行・ホームページ制作等＞

- ・会報28号、29号、30号と、TKGニュースNo.60、No.61号を発行しました。
- ・英文ホームページ小委員会を組織して、内容確認を進め、2017年度始めに公開しました。
- ・日本語ページのWhat's New! コーナーの記事を年度内に14回更新しました。

＜出版物発行等＞

標識個体の情報展示のために「標識鳥ファイル」を更新して、阿寒国際ツルセンターと日本野鳥の会鶴居・伊藤サンクチュアリに置きました。

★国際協力活動

＜国際タンチョウネットワークの活動への参加・協力＞

2016年8月に中国・内モンゴル自治区と遼寧省で行われた国際ネイチャースクールに本会会員3名が参加しました。また、同スクールの中心的存在であるWu博士(8～9月)とSu博士(3月)を釧路に招聘し、今後の活動に向けた研修と協議を行いました。

＜世界のツル関係者との交流及び情報交換＞

2016年6月に道東地域を訪れたロシアのクリル国家自然保護区の一行に同行し、タンチョウの生息地を案内するとともに、シンポジウムに参加して情報交換を行いました。

2016年8月はモンゴルで開かれたマナヅル保護のための国際会議に参加し、東アジア地域、特に内陸部のツル類の生息状況等について情報交換しました。

2016年8月～9月に中国・東北林業大学のWu博士が釧路に滞在しました。Wu博士の来訪は、RCCとの共同研究を行うためのもので、現地取材、情報交換等について全面的にバックアップしました。研究は、北海道のタンチョウの生息状況と中国の生息状況を比較する内容となる予定です。

2017年2月に来釧した韓国・ソウル大学のLi教授一行のタンチョウ生息地視察に対応しました。

★その他の活動

＜提言等＞

十勝川流域で予定されている工事に対して、生息するタンチョウに配慮すべき注意事項を助言しました。

北海道根室振興局農地課、同釧路振興局農地課が事業を予定している草地改良事業、農道改修工事等に対して、生息するタンチョウに悪影響を与えないよう、工事の時期、注意事項について助言しました。

＜本会の活動を支える為の資金調達に向け、

企業等に寄付協力を募る活動＞

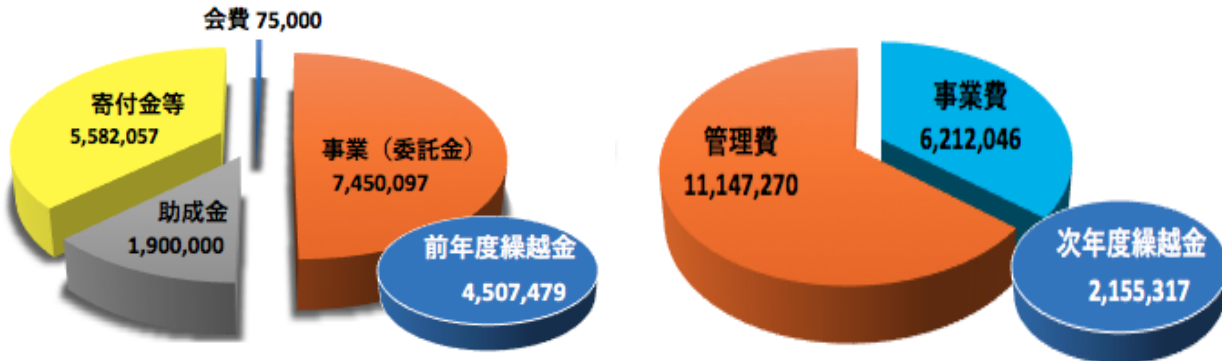
日本航空本社を訪問、また、同社の担当者を事務所にて迎えて、今後の活動、支援体制を協議しました。

2016年12月に北洋銀行本社を訪問し、法人の財政状況改善に向け、道内企業から寄付を募るための方策について協議しました。

<2016年度収支実績>

収入 15,007,154

支出 17,359,316



※ 繰越金は、収入・支出の合計に含まれていません。

2017年度 活動計画

★ 調査研究活動

- ・タンチョウ生息状況調査:春の飛行調査及び年間を通じた繁殖状況調査、冬の生息数調査を行います。
- ・タンチョウ標識調査:ヒナへの標識装着とその後の追跡調査を行います。
- ・大陸と北海道とのタンチョウの遺伝子解析:韓国の越冬地で羽毛を採取し、分析する研究(酪農学園大学寺岡研究室)に協力します。
- ・DNAを使った餌の調査:タンチョウの糞中に含まれるDNAを分析し、餌生物の同定調査を行います。研究費の一部は旭山動物園くらの助成金で対応し、分析は酪農学園大学寺岡研究室にご協力をいただきます。

★ 保護・保全活動

- ・タンチョウ生息地分散:生息地分散のため、新規営巣地・越冬地についての情報収集等を進めます。
- ・傷病個体の保護収容への協力等:環境省が行う傷病個体の保護収容等に協力します。
- ・中標津俵橋湿原プロジェクトの推進:タンチョウとヒトが永続的に共生できる環境の再生を目指し、同地をタンチョウの棲める湿原環境に回復させることを目的として、地元の社会環境調整を進めるとともにタンチョウの生息地整備を行います。

- ・キナシベツ湿原プロジェクト:キナシベツ湿原を愛する会、浦幌町博物館に協力して保護区指定に向けた手続きを進めます。鳥類調査、資料整理、学生によるフィールドアシスタント活動への協力なども行います。

★ 教育普及活動

- ・タンチョウその他ツル類に関する講演・講習会:最新の情報を広く紹介する為、講演会を随時開催するとともに、RCCの活動とその成果を紹介する勉強会を行います。
- ・出版物の発行等:標識鳥ファイルの更新と小冊子[湿地の神I, II, III]ほかを配布します。

★ 提言及び情報発信

- ・提言:行政の行う事業が、タンチョウの生息に悪影響を与えないよう助言します。また、環境省などの行政や団体と、タンチョウ保護活動の今後の方向性について協議を進めます。
- ・会報等を発行するとともに、ホームページの更新を随時行います。ホームページの英語版は次年度の早期に公開します。

★ 国際協力活動

・国際タンチョウネットワーク(IRCN)の活動への参加・協力:中国のタンチョウ生息地とその周辺国境地帯における普及啓発のための国際プロジェクト(INS)、中国・韓国・ロシアにおけるタンチョウの生息状況把握調査、また、データ提供等を通して国際自然保護連合のツル専門家部会の活動に参加します。

・世界のツル関係者との交流及び情報交換を行います。

★ その他の活動

・活動資金の調達、等:本会の活動を支える資金調達のために、企業等に寄付協力を募ります。

2016年度の俵橋湿原ゆめプロジェクトの活動について

大河原 彰・百瀬 邦和

2016年は4月早々にプロジェクトの連絡会を行い、釧路と中標津から8名のメンバーが集まりました。そこでは、これまでのデントコーン畑の耕作を継続してタンチョウの越冬条件整備を行うこと、湿原に隣接する遺跡についてもプロジェクトの対象に加えること、プロジェクトの全体像を図(絵)にしてイメージを作り上げていくこと、遺跡の現状確認と俵橋湿原内の土地の利用状況を把握するための調査を行なうこと等を話し合いました。

遺跡と土地利用の調査は雪の消えるのを待って4月17日に早速実行しました。嬉しいことに、当日は対象地内の小さな湿原で巣に付いているタンチョウを確認出来ました。このつがいの1羽には足環088が付いていて、さらにヒナ1羽が巣立ったことも後日確認しました。

一昨年の2015年の俵橋湿原のデントコーン畑は「未成り」状態ではありましたが、秋にタンチョウを誘因することが期待出来る程の実りを得ることができました。

2016年は、隣接した農家の方が標津川沿いの優良農地の一部を提供して下さり、2ヶ所の畑にツル用のデントコーン畑を作ることが出来ました。6月8日の種まきには、会員の榊原さんが畝作り用の耕耘機をもって駆けつけて下さいました。ところが、6月から8月にかけて道東は例年になく大雨に見舞われ、3ヶ月間の雨量は前年の3倍以上だったそうです。俵橋湿原のデントコーン畑は8月には水没状態でしたが、比較的水はけの良い標津川沿いの畑の方はなんとか無事でした。9月初旬まで何度も草取りを行なった結果、10月19日にはデントコーンを刈り取って、俵橋湿原の畑と武佐地区でお借りした畑脇の2カ所にニオを作ることができました。

自分たちで耕作したデントコーンだけでニオが作成出来たのは初めてです。

俵橋湿原の畑のニオには同湿原で繁殖した088の家族が通っていましたし、足跡から判断するとこの家族とは別の1羽だけの個体に来ていたと思われます。

武佐地区の畑脇のニオは、12月中にシカの被害にあって半分裸にされてしまったためでしょうか、1月7日にタンチョウ1羽の足跡が見られたのが最後でした。

2017年はさらに改良を重ねてデントコーン畑を作っていますので、興味のある会員の方は除草等への参加協力をお願いいたします。

草取り後の標津川沿いの畑(8月18日)



シカの被害にあった武佐地区のニオ(12月22日)

ニオに来ていた088(右)の家族



アーチボルド博士との同行記

総合研究大学院大学 特別研究員 武田 浩平

タンチョウのコミュニケーションをテーマに研究しております武田です。この度、関係者のご好意のおかげで、ツルの研究・保護の世界的な第一人者であるジョージ・アーチボルド博士の北海道の視察旅行に同行致しました。

アーチボルド博士は、アメリカで保護の拠点となる国際ツル財団を設立されて、飼育法の確立や世界中の生息地の保全調査を通じて、ライフワークとしてツルの研究・保護に献身され、多大な貢献を行っております。その偉業が認められ、母国カナダから爵位を授けられるほどの偉人です。実際にお会いしてみると気さくで親しみやすいお人柄で、私の拙い英語でも熱心に聞いてくれる心の優しい方でした。



ジョージ・アーチボルド博士(左) とともに

今回は、理事長の百瀬邦和さんと共に、私の同行した4日間の視察旅行を簡単にご報告致します。

視察スケジュールは、博士の訪れたことない場所を中心に組まれました。

同行初日(5/31)は、俵橋プロジェクトの視察とそのお手伝いに行きました。俵橋プロジェクトは、NPO法人タンチョウ保護研究グループが現地の方々々と徐々に進めている保全事業です。当日は、越冬期の食料となるコーン畑を作るために、畝を作って、コーンの種子を植える作業をボランティアの方々と一緒に行いました。オオジシギが鳴く長閑な環境の中で、アーチボルド博士は、耕運機を使っての畝づくりなど、一員となって作業をされました。



デントコーン畑の畑起し作業

次の日(6/1)、主に網走方面の視察を行いました。現場をよく知るボランティアによる案内のおかげで、抱卵中のタンチョウを観察でき、タンチョウの採餌場所とされる水田を視察しました。濤沸湖水鳥観察センターでは、アーチボルド博士が職員の方に熱心に沢山の質問をされている姿が強く印象に残りました。この日の宿泊では、私自身の研究成果を説明して、議論を深めることができました。有難いことに、アーチボルド博士が世界中から撮ってこられたツルの興味深い映像をみせていただき、とても参考になりました。

3日目(6/2)、小雨がぱらつく中、知床五湖とフレペの滝を散策しました。博士にとって初めての知床であり、風光明媚な自然を堪能しているご様子でした。宿泊地で日本のご友人と再会して、

夕食の場にて、調査中に知り合った多彩な民族や偶然巡り合わせた著名人との思い出話などで花をさかせていました。

最終日(6/3)、野付半島や走古丹などをタンチョウの家族を探しながら帰りました。アーチボルド博士は野付半島の不思議な地形に興味を示され、現地の特産品のシマエビを召し上がられました。道中の寄り道で、シマフクロウの番いを一度に観察する幸運に恵まれました。

一連の視察旅行はすべての行程を無事終了し、いろいろな人々との交流もできましたので、大変、実りのあるものでした。私も博士との幅広い議論を通して、とても良い刺激を得ることができ、有意義な経験をさせていただきました。皆様に感謝致します。

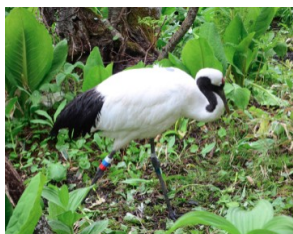
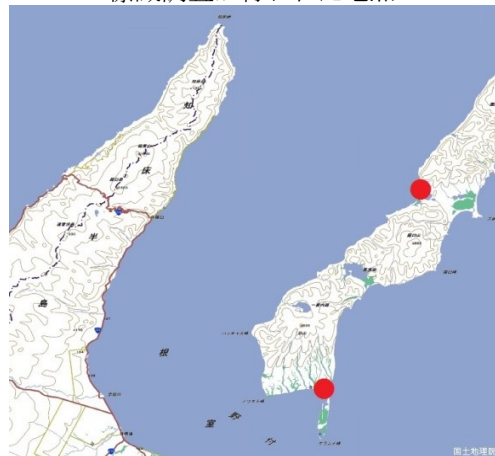
国後島でタンチョウに発信器が着けられました (事務局)

Tancho 28号のトピックスでお知らせしたクリル国家自然保護区との共同による標識調査ですが、その後進展がありました。

2017年の5月22日から6月1日にかけて国後島のクリル国家自然保護区でタンチョウの標識調査が行われました。今回の調査では2羽のメスの成鳥それぞれに、ロシアの標準メタルリングと当法人が提供したカラーリングと発信器が装着されました。この調査では装着個体の位置情報が2時間おきに記録されます。

これを期にタンチョウの共同調査が一步前進することが大きく期待されています。

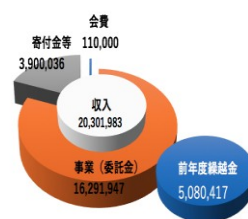
標識調査が行われた地点



<会報の訂正について>

1. 2015年度の収支実績の訂正

28号の活動報告中の収支実績(収入)に誤りがありましたので右図のとおり訂正いたします。



2. 冬期カウント調査の訂正

30号の冬期カウント調査で、中茶安別の調査日に誤りがありました。次のとおり訂正いたします。

(誤) 2月6日 → (正) 2月7日

<活動記録> (2017年3月～7月)

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 3月14日 | 釧路パイロータリー例会にて講演(百瀬) | 5月19日 | 池田河川事務所で情報交換会(百瀬) |
| 3月17日 | 阿寒国際ツルセンターでの魚給餌試験の
検証会議に出席(百瀬) | 5月27日 | 2017年度 理事会(於:シルバーシティー
ときわ台ヒルズ) |
| 3月29日 | RCC英文HP小委員会 | 5月28日 | 2017年度 総会(於:釧路市中部地区
コミュニティーセンター) |
| 4月 5日 | RCC英文HP小委員会 | 5月31日 | 俵橋湿原ゆめプロジェクトのデントコーンの
種撒き(百瀬、Archibald、榊原、武田、松木) |
| 4月 7日 | 運営会議(9名出席) | 6月9日 | 運営会議(10名出席) |
| 4月11日 | 釧路総合振興局農村振興課と今年度の
農業農村整備事業に際しての、タンチョウ
への影響と配慮事項について協議(百瀬) | 6月13日 | 道央・道南地方で分散候補地の状況視察
～15日(百瀬) |
| 4月14日 | 標茶町住民からの要請で、タンチョウ営巣地
隣接地での工事状況を現地確認(百瀬) | 6月16日 | 俵橋湿原で種の蒔き直しとネット張り
(百瀬、松木) |
| 4月18日 | 根室振興局農村振興課と今年度の農業農村
整備事業に際しての、タンチョウへの影響と
配慮事項について協議(百瀬) | 6月17日 | タンチョウの標識調査に向けた学習会
(於:わっと) |
| 4月24日 | 十勝地方の航空調査
～25日 | 6月24日 | タンチョウ標識調査
～7月16日 |
| 5月9日 | 釧路河川事務所と今年度の築堤工事に
際しての、タンチョウへの影響と配慮事項
について協議(百瀬) | 6月26日 | シマフクロウ等生息環境整備勉強会に出席
(百瀬) |
| 5月10日 | 英文ホームページを公開 | | |
| 5月12日 | 運営会議(9名出席) | | |
| 5月17日 | 中標津で俵橋湿原と武佐の古いニオを撤去
(百瀬、松木) | | |

<会員 (7月18日現在)>

運営会員: 27名、個人サポート会員: 143名、団体サポート会員: 17団体

Red-crowned Crane Conservancy (RCC) newsletter

TANCHO

Thirty-first issue July 2017

<表紙写真>

繁殖地の縄張りが近い2組のタンチョウ
のつがい(左手前と右奥)

(2015年8月撮影)

特定非営利活動法人
タンチョウ保護研究グループ

〒085-0036

北海道釧路市若竹町9番21号

Tel/Fax 0154-22-1993

e-mail: tancho1213@pop6.marimo.or.jp

URL: <http://www6.marimo.or.jp/tancho1213>